

【JP-MIRAI 活動報告発表】

「共生社会」実現にむけて  
相互理解のための発信の試み  
～外国人材就労支援事業の現場から～

2024年3月 日



協同組合 ビジネスナビ

## 【活動名】

「共生社会」実現にむけて相互理解のための発信の試み  
～外国人材就労支援事業の現場から～

## 【該当行動原則】

### 行動原則3

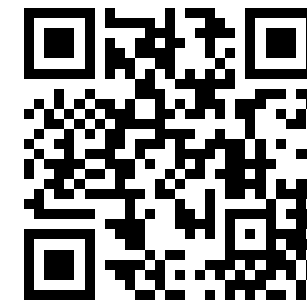
『私たちは、働く場と生活の場の両方で、外国人労働者との相互理解を深め、信頼関係を醸成します。』

## 【組合概要】

- 〈名称〉 協同組合 ビジネスナビ
- 〈本部〉 大阪市淀川区宮原2丁目14番14号
- 〈設立〉 平成20年1月18日
- 〈組合員数〉 1543名（2024年1月末時点）
- 〈認可省庁〉 大阪府、近畿財務局、近畿地方環境事務所、警察庁、厚生労働省、  
総務省、法務省、大阪国税局、文部科学省  
(設立認可省庁 近畿経済産業局、近畿運輸局、近畿農政局)
- 〈許認可〉
- 外国人技能実習生 監理団体  
平成30年3月27日 法務省 厚生労働省  
一般監理事業許可〔17080000367〕
  - 特定技能外国人 登録支援機関  
令和元年6月20日 出入国在留管理庁 登録〔19登-000674〕



協同組合 ビジネスナビ



## 【活動ポリシー】

(私たちがすべきこと)

「外国人材」と「受入企業」双方が求めることに  
責任をもって応える監理、支援事業の実施

(そのために)

「通常手段で3時間以内の移動、24時間以内の対面対応可能距離」

「外国人材を中心に置いた支援のパートナーシップ」

外国人材に関わる当事者の全員が、外国人材の人生に責任を負う。



## 【外国人材受入れ法制度の改正】

昨年11月末「技能実習制度及び特定技能制度の在り方に関する有識者会議」の最終報告書が法務大臣に提出され、本通常国会にて、その内容を踏まえた法案が提出される見通し。

### 【概要】

- 現行の技能実習制度を発展的に解消し、人材確保と人材育成を目的とする新たな制度（仮称「**育成就労制度**」）を創設
- 受入れ対象分野は、特定技能制度における「特定産業分野」の設定分野に限定
- 転籍については、「やむを得ない場合」の範囲を拡大・明確化し、手続を柔軟化するとともに、一定の条件の下、**本人の意向による転籍も認める**
- 監理団体の許可要件を厳格化
- 特定技能外国人に係る支援業務の委託先を登録支援機関に限定するとともに、登録支援機関の登録要件を厳格化
- 本人意向の転籍要件に関する就労期間について、当分の間、分野によって1年を超える期間の設定を認めるなど、必要な経過措置を設けることを検討

法制度改正に向けて、政府の有識者会議は、2022年12月から2023年11月までに計16回開催され、有識者による議論を経て、「最終報告書」が作成されました。

[議論の過程を見続けて、私たちが感じてきたこと]

**「実情があまりにも知られていない」**

海外人材が何を求めて日本に来て、何を考えて生活しているのか。

受入れている企業等がどれほど努力をしているか。

不適切事例はなぜ起こっているのか。



**目立つ極端な事例をサンプルにして、現状分析された印象。**

正すべきところはきちんと正しながらも、  
今まさに良い形で進んでいることまで止めるべきではない！  
そこには前向きに全力で努力している人たちがいるのだから。

【これを受けて、私たちの取り組み】

外国人材はこれからますます必要とされ、受入れ制度は拡幅していくが、受入れる日本の社会の、情報不足による無理解が解消されないままでは、お互いにとって不幸な形になってしまう。



日々外国人材と接する私たちが、小さな日常のありのままを発信することで、外国人材について「認識」を持ってもらう試み。



日常生活、家族の姿、飾らない本音の言葉をそのまま発信し、「違い」も含めて認め合う環境を作っていくための「発信」を行っていく。

そのために！



# 【Instagramでの動画配信】

インスタグラム



もっと見る

フォローする







← 入国したばかりのラオス技能実習生

→ 入国3年目のミャンマー技能実習生





**1年目  
ベトナム  
技能実習生**  
**初めての牛丼**

← 入国1年目ベトナム技能実習生



← 入国1年目バングラデシュ技能実習生





← バングラデシュ現地面接にて



← バングラデシュ家族訪問

## 【取り組みの成果】

- Instagramを更新した週のHPの訪問者数が増加傾向にある
- 発信メールの署名欄にInstagram・ブログを転載すると、企業訪問の際にも、外国人材が話題に上がるようになり、情報交換の幅が広がっている。
- 外国人材の新規受入を検討中の企業が、バングラデシュ実習生のインタビューを見て、思った以上に日本語が話せるとの印象を持ち、受入の決定に繋がった。
- 実習生にInstagramで取り上げたことを伝えると、本人のモチベーションがアップし、仕事でも生活でも後輩の面倒を見てくれたり等のリーダーシップを発揮し、本人自身も日本語試験を積極的に受けるようになってきた。



イベントで取材を受けました！

関心の広がりが意識の向上を促し、少しずつではあるが、相互理解の「土壌」が出来つつある

## 【これからの取り組み】

- 日本国内、海外双方からの目線で情報を発信すること。  
その情報がどのように受け止められるか、まで思いをはせること。
- 知ることでお互いの「違い」を尊重しつつ、それぞれが求めるものを  
得るために必要なことは何か、を考える。

外国人材の受入を求める企業の意識は、この数年で確実に変化している。

「安い労働力」ではなく、「必要な人材」としての外国人材。

ただ、社会全体にその意識が浸透しているとは言えない、となお感じる。

⇒本当に寄り添う気持ちを持っているか、現に寄り添っているか？



# やさしい日本語とは？

日本人が

少しの工夫を取り入れることにより

外国人材に伝わる日本語です。



こんなところにほっといたら  
見つまづくやん。  
なにがアカンか分かる??



ここに おきます。  
わたし は こけます。  
いいですか？  
そうですね。あぶないですね。

→ ゆっくり発音します。  
ジェスチャーを入れると  
更に伝わります。

## 【終わりに】

外国人材へのアプローチは、それぞれの立場からそれぞれの目的において行われますが、  
「共生社会の実現」をテーマとし、  
双方の幸福実現が目的である点で同じです。  
外国人材支援は、生活全般に関連し  
且つ異文化理解の技術的側面を必要とする、  
「福祉的観点」を含めた複合的事業になってきます。  
情報の発信によって、相互理解を深め、  
外国人材と日本社会がともに未来を築いていける  
「共生社会」の実現に近づけるよう、  
引き続き活動に取り組んでまいります。



ご清聴ありがとうございました。



協同組合 ビジネスナビ



<https://navi.or.jp/>